

2017年3月17日

SOMPOケアネクスト株式会社

認知症ケアの教育に「バーチャルリアリティ」を導入

SOMPOケアネクスト株式会社（社長：遠藤 健、以下「SOMPOケアネクスト」）は、認知症ケアにおける人財育成の一環として、2017年3月から「バーチャルリアリティ」（以下「VR」）を導入しました。

1. 背景

SOMPOケアネクストは、研修センターの開設をはじめ、人財育成のための環境整備に力を入れており、認知症ケアの教育にも注力してきました。2016年10月には、認知症研究の第一人者・本間昭氏を顧問に迎えて各施設で認知症の事例研究会を開催しているほか、睡眠センサーといったICTの活用、定期的な研修の開催、認知症ケア専門士の資格取得奨励など、さまざまな取り組みを通して高い専門性を持つ人財の育成を推進しています。

こうした取り組みに加え、認知症ケアに関する人財育成を一層進めるため、3月からの採用活動においてVRの活用を開始し、4月からは社内研修にも取り入れる予定です。

2. VRの活用

導入したVRは、認知症の中核症状等を体験できるコンテンツです。コンテンツはエピソード形式になっており、よくある日常シーンを題材として、認知症の方が困っていることを疑似体験することができます。

エピソードは現在4話あり、電車で揺られている時に自分がどこにいるのかわからなくなるエピソードや、レビー小体病のある本人が監修した幻視を体験できる映像などが盛り込まれています。

VRの導入により、職員が認知症の中核症状を「一人称」（自分事）として体験することで、認知症の方が置かれた立場や不安、とまどいを体感で捉え、知識・技術をより適切なケアに活かしていくことが可能になります。

3. 今後について

VRは今後、グループ会社であるSOMPOケアメッセージ株式会社でも導入を検討しています。両社導入後は、共同で教育・採用活動に活用していく予定です。



企業説明会（採用）の様子

《認知症について》

認知症にはいくつか種類があり、主なものは「アルツハイマー型認知症」「脳血管型認知症」「レビー小体型認知症」「前頭側頭型認知症」の4タイプです。記憶障害が引き起こされる「アルツハイマー型認知症」が最も多く、全体の7割を占めています。

中核症状とは、脳の神経細胞の破壊によって起こる症状で、認知症の種類によって異なります。代表的な症状は記憶障害で、記憶ができないため、直前に起きたことでも思い出せなくなるなどの症状があります。厚生労働省研究班によると、2012 時点で 65 歳以上の認知症有病者数は約 462 万人と推計されています。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

SOMPOケアネクスト株式会社

マーケティング部 広報課 中原（電話：03-5783-4188）